

市区町村名	紫波町	担当部署	企画総務部 消防防災課
		電話番号	019-672-2111 (内線 5312)

1 取組事例名

- ・戸別受信機で情報格差を改善

2 取組期間

- ・令和3年度～(継続中)

3 取組概要

- ・携帯電話やスマートフォンをお持ちでない高齢者世帯等に戸別受信機を配布し、緊急時などの情報格差を改善した。

4 背景・目的

- ・当町では長年、農協が運営する有線放送網を利用し防災情報などを配信していたが、平成30年に急きょ廃止が決まり、約1年かけて携帯電話やスマートフォンへの一斉送信システムを構築。しかし、携帯電話やスマートフォンを持たない高齢者世帯等には配信されないことが新たな課題となり、戸別受信機の導入を決断した。

5 取組の具体的内容

- ・対象者の大半が高齢者のため、音声と文字で伝達する方式のほか、使いやすさが求められた。また、低所得者も多く、できるだけ費用負担が少ない機種を選定する必要があった。
- ・様々な機種を比較検討した結果、電源をつなぐだけで設置可能な手軽さと、広範囲な受信エリアであることから、凸版印刷の「あんしんライト」が最も理想に近い製品であり、導入することにした。
- ・導入台数は、町内の高齢者世帯数と高齢者の携帯電話普及率から算出して500台とした。
- ・台数限定のため、配布対象を絞り全世帯に案内チラシを配布。徐々に範囲を広げ4回に分けて募集し、真に必要な世帯へ設置できるようにした。

6 特徴（独自性・新規性・工夫した点）

- ・同報系防災無線を整備していない自治体でも導入が可能。Jアラートなどの防災情報は自動配信される。
- ・携帯電話やスマートフォンに一斉配信している情報を自動転送することで、一度の入力で携帯電話等のほか戸別受信機にも配信される仕組みとした。
- ・想定する情報弱者に設置していただきたいため、対象範囲を広げながら4回に分けて希望者を募集した。

7 取組の効果・費用

- ・携帯電話等への一斉配信システムを導入した際に、携帯電話等を持たない世帯への情報配信が課題であったが、戸別受信機の導入により解決することができた。
- ・国の臨時交付金を活用することで、利用する住民が負担することなく導入することができた。

8 取組を進めていく中での課題・問題点（苦労した点）

- ・対象者を広げながら募集したが、そもそも情報弱者と言われる方々に、募集の情報もうまく伝わっていなかったことが判明し、民生委員や行政区長などに協力を呼び掛けて募集した。
- ・携帯電話等を持たない高齢者世帯は、災害時に防災情報を配信しても、避難するために支援が必要な方々も多く、避難支援対策も同時に取り組んでいかなければならない。
- ・ニーズには応えられたが、想定のおよそ半分程度しか希望が無かったことから、情報提供したいすべての世帯に設置できたわけではなく、全戸配布しなければ、全世帯に情報配信したことにはならない。

9 今後の予定・構想

- ・残った受信機は、自治公民館や自主防災組織等に配布し、災害時の避難所等で活用してもらえるようにしたい。

10 他団体へのアドバイス

- ・高齢者世帯への情報配信を短期的にローコストでどう対応するか。

11 取組について記載したホームページ

[高齢者も使いやすい戸別送受信機で情報格差を改善 | ジチタイワークス \(jichitai.works\)](#)

[高齢者も使いやすい戸別送受信機で情報格差を改善 | 凸版印刷 | TOPPAN SECURE](#)